

実施状況（速報）

生活・福祉相談業務統括 尾松郷子

<実施状況>

事業実施日：平成 22 年 9 月 13 日（月）～9 月 17 日（金）5 日間

実施場所：大阪市西成区萩之茶屋 1-9-27 NPO 釜ヶ崎支援機構 特別清掃事業集合場所

健康診断項目：問診、血圧測定、採血による血液検査

健診受診者数：919 人（特別清掃の登録者は 1751 人であるが、8 月の実際稼働している輪番労働は 1134 人で、今回の健診では 81%をカバーしていることになる。）

要医療者：基本的には、収縮期血圧が 180 以上ある人たち（重度高血圧）

実施日	当番責任病院	受診者数 (人)	うち要 医療者 数 (人)	紹介先		備考
				社会医療 センター	当番責任 病院	
				9 月 13 日 (月)	中津病院	
9 月 14 日 (火)	吹田病院	176	19	17	2	
9 月 15 日 (水)	千里病院	214	17	16	1	※社会医療センター受付時に受診拒否 1 名
9 月 16 日 (木)	野江病院	179	19	15	2	※要医療者のうち 2 名はすでに大阪社会医療センター受診中なので紹介先はなし
9 月 17 日 (金)	泉尾病院	126	14	12	2	
計		919	97	84	11	

表 1：実施状況

<基本属性>

・性別

健診を受けた人たちの大半は男性であった。

性別	人数	割合
男	916	99.7%
女	3	0.3%
計	919	100.0%

表 2：性別

・年齢

健診を受けた人たちの最年少は 51 歳、最高齢は 82 歳、平均年齢は 62.9 歳となった。

年齢層	人数	割合
55 歳未満	2	0.2%
55 歳以上 60 歳未満	235	25.6%
60 歳以上 65 歳未満	378	41.1%
65 歳以上 70 歳未満	208	22.6%
70 歳以上	96	10.4%
計	919	100.0%

表 3：年齢分布

<要医療者—高血圧者>

年齢層	人数	割合	各年齢層
			比率
55 歳未満	0	0.0%	0.00
55 歳以上 60 歳未満	22	22.7%	0.09
60 歳以上 65 歳未満	42	43.3%	0.11
65 歳以上 70 歳未満	21	21.6%	0.10
70 歳以上	12	12.4%	0.13
計	97	100.0%	

表 4：年齢分布（要医療者）

要医療者の平均年齢をみると、最年少 55 歳、最高齢 77 歳、平均年齢 65.1 歳となった。健診を受けた年齢分布と比較すると（各年齢層比率）、高齢になるにつれて、要医療の人の出現率があがっていることがわかる。

今回、健診で要医療と言われたのは、基本的に収縮期血圧が 180 以上に人たちである。日頃血圧を測る機会がない人たちが多く、最初は機械で測定するが、緊張してしまい、脈拍を増え、今までにない高い値を示し、医師が再測定するなかで、医師と話しをしながら、深呼吸をしながら下がる人たちもいた。しかしながら、頭が痛い、ふらつくなどの自覚症状がない状態で、ビックリするような血圧の値を示す人もいた。200 以上の人 が 54 名もいた。以下でその中の 4 名を紹介する。

【Aさん 60代前半 男性 <279/148→230/128>】

朝食は食べていない。昨日はシェルターで寝た。タバコもお酒もしない。今までに既往症もないし、病院も受診していない。血圧がこれほど高いことはなかった。採血の結果も特別問題はない。健診の当日、社会医療センター受診したが、翌日も再度社会医療センター受診するように言われたが、その後、特別清掃に就労していない。

【Bさん 60代後半 男性 <252/156/130→240/150→183/113>】

朝食は食べた。昨日はシェルターで寝た。タバコは1日20本、アルコールは週3～6回飲んでいる。今までの既往歴もないし、病院も受診していない。血圧測定時脈拍も増え緊張していたが、何度か測定していくうちに少しは血圧が下がるが、まだまだ高い。健診日に社会医療センター受診、薬は処方され、高血圧外来に来るように言われる。採血の結果では肝機能が非常に悪かった。

【Cさん 60代前半 男性 <244/136→236/128>】

朝食は食べた。堺市のアパートで生活している。年金はない。国民健康保健もない。タバコは1日20本、アルコールは毎日飲んでいる。以前に高血圧で病院にかかったことはあったが、現在病院は通院していない。今回健診日に済生会病院受診、再度採血が行われ降圧剤を2週間分処方された。

【Dさん 50代後半 男性 <258/90→220/90>】

朝食は食べていない。昨日はシェルターで寝た。タバコは1日20本、アルコールは飲まない。既往歴もなく、病院受診もしていない。血圧を測って初めてこんなに高いことを知った。採血の結果は全く異常がなかった。社会医療センター受診、28日分の薬を処方してもらって、きっちり飲んでいる。薬が残っているが、心配になって、社会医療センターに受診、血圧を下げるためには薬以外にどのようなことを注意したらいいのか、医師からのアドバイスをききにいった。仕事がないときでも特別清掃事務所に血圧を毎日測定、記録をつけている。

特別清掃の健康診断で血圧が高く要医療であった場合、社会医療センターもしくは済生会病院の当番病院に当日受診をしてもらう。薬を処方してもらう人、採血の結果が出ないと薬を処方することができないと言われ帰ってくる人、しばらく様子を見ましようと言われる人、様々であるが、次回輪番がまわってきて就労するときは、必ず血圧を測定することとなる。服薬しても、長年のストレスのかかる過酷な生活から、すぐに血圧が下がることはなかなかなく、就労現場に行くことができず、待機になる場合がある。輪番労働者の中には、「働けないのなら帰る」と怒って帰る人もいた。待機の時間は、今までの生活などをきいて、いかに継続して治療を続けるか、生活保護をすすめることになる。

特別清掃の本来の目的は、輪番労働者が野宿状態から抜け出して、畳の上にあがること。健康診断で自覚できない身体の状態が分かることがある。まず、ちょっと立ち止まって今の自分自身を確認してはどうだろうかと声をかけさせてもらう。路上で倒れて死に至らなくても、身体が不自由にならないように、そのためのきっかけに、健康診断がなればと思っている。